

三宅島山頂カルデラ壁の比較的大規模な崩落について

2008年5月15・16日に行った山頂付近の調査により、陥没カルデラ南西縁にあたる716mピーク（北緯34度5分1秒、東経139度31分7秒）付近のカルデラ壁が、長さ約230m、奥行き最大約60mにわたってカルデラ内部に崩壊しているのを発見した（図1・2）。崩壊堆積物はカルデラ床南西部の約300m×250mの領域を覆っている。崩壊部分の体積は約30万立方メートルと推測されるが、崩壊の領域・規模についてはより詳細な検討が必要である。

本崩壊が発生した時期については不明であるが、2007年9月14日に撮影されたカルデラ底の写真には崩壊堆積物は認められない。崩壊堆積物の状況から、崩壊は比較的最近発生したものと考えられる。

小規模な崩壊・落石は2008年5月16日現在も進行しており、崩壊地点直下にあたるカルデラ壁南西部のカルデラ壁基部に崖錘が成長しつつある。

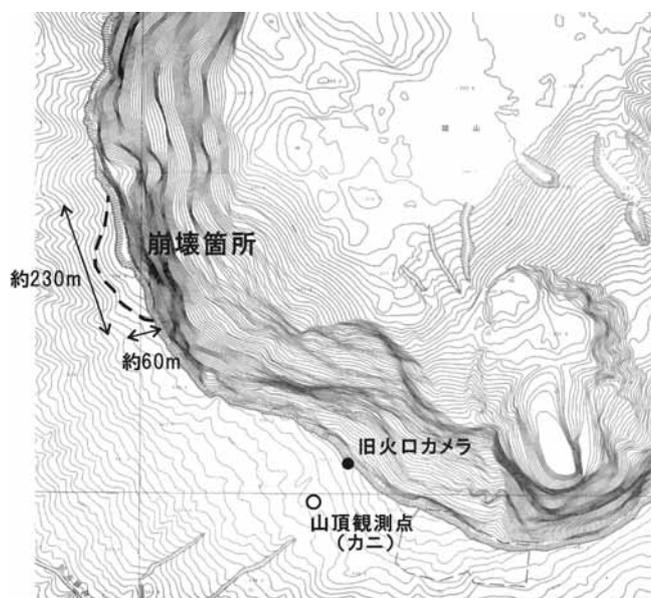
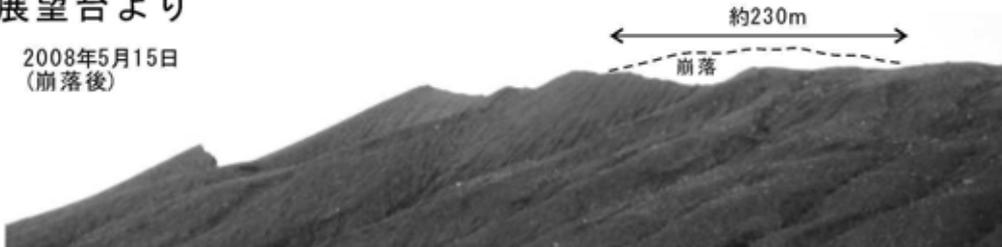


図1：カルデラ壁崩壊位置

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の5000分の1火山基本図「三宅島」を縮小の上使用した。

七島展望台より

2008年5月15日
(崩落後)

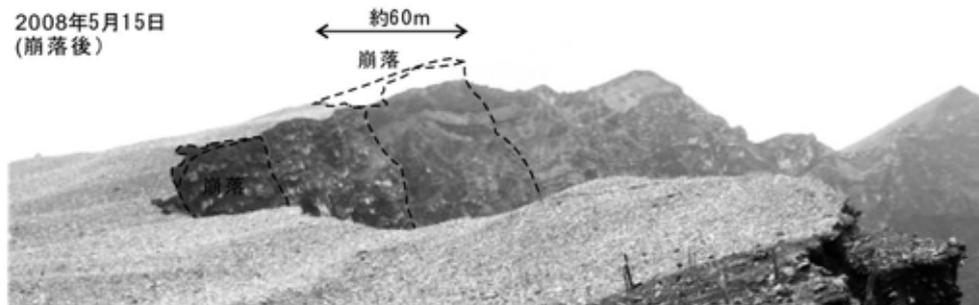


2007年3月26日
(崩落前)



旧火口カメラ地点付近より

2008年5月15日
(崩落後)



2007年6月3日
(崩落前)



図2：崩壊前後の状況。

各図上：崩落後（2008年5月） 下：崩落前（2007年3月及び5月）